

元気で躍進
地域経済

内視鏡など高校生が体験

オープン ホスピタル 済生会松阪「将来 医療現場に」



清水副院長(右)の指導で2人1組になって内視鏡を操作する生徒(右から2人目と左ら)

朝日町一区の済生会松阪総合病院で

技師、管理栄養士など。この日は▼進路相談・注射体験コーナー▼内視鏡(胃カメラ)、エコー

ライブ体験コーナー▼救急蘇生法体験コーナー▼模擬手術体験コーナー▼ナース服など試着体験コーナー▼などが設けられ、高校生は五つのグループに分かれて順番に体験した。

内視鏡とエコーのコーナーでは、内科医の清水敦哉副院長(57)が人形を使って内視鏡を操作す

県内29社で仕事体験

三重化学では保冷剤作り

NPO法人「アトリオ(a trio)」(本部津市)が「教育CSR(企業の社会的責任)」の一環で毎夏開いている「三重チャレ」小中高しごと密着体験(県教委後援)が2日、県内の29事業所で行われ、児童生徒が大人たちの働く現場を見学し、働くことについて考えた。松阪地区でも三重化学工業㈱(松阪市大口町)と㈱ころダイヤサービス(同市八重田町)、中村土建㈱(同市垣鼻町)、万協製菓㈱(多気郡多気町五桂)、ユーエスマート㈱



(同町仁田)で行われた。そのうち三重化学工業では午後1時半から、自分だけのオリジナル保冷剤を作る講座が開催され

思い思いの保冷剤を作る児童ら。大口町の三重化学工業本社で

た。県内から小学5年、高校2年の児童・生徒と、付き添いの保護者らが参加。尿素(凝固点調整剤)とプロピレングリコール(不凍液)を混ぜて、好きな色に着色し、ハート形や星形など思い思いの装飾素材も入れてかき混ぜてパック詰め。その後、同社の看板製品の作業用手袋「ミエロップ」や保冷剤「スノーパック」の工場を見学して回った。

松阪市朝日町一区の済生会松阪総合病院(諸岡芳入院長)は3日午後2時から約3時間、第10回オープンホスピタルを開催した。高校生に医療現場を見せて関心を深めてもらい、将来医療に従事してもらおうと毎年開いている。松阪地区の4高校から計38人が参加した。

参加したのは県立松阪商業5人と、同相可11人、私立三重6人、県立松阪16人の計38人。内訳は女子33人と男子5人で、1年生が9人、2年生が22人、3年生が7人。志望職種は看護師が22人と最も多く、その他、医師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、作業療法士、臨床心理士、放射線